

平成19年度 第5回宮崎県福祉機械研究会 議事録

日 時 平成20年2月9日(土) 13:30~17:00
場 所 県介護・福祉研修所 人材研修館3F
出席者 40名(内、岡山県から14名)

概 要 ・平成20年度の役員選任、専門部会
・岡山県津山福祉住宅研究会との意見交換会、研究発表



■福祉機械研究会分科会

13:30~14:50

○平成20年度役員選任

会長 黒木 保善氏 ((株)昭和)
副会長 長友 光雄氏 ((有)長友工務店)
会計 山上 良彦氏 ((株)日光製作所)
会計監事 川村 博幸氏 (県介護・福祉研修所)

以上の方が選任されました。4月1日より、よろしくお願ひします。
また、事務局は、引き続き工業技術センター布施が担当します。

○会則の変更について

《現 行》

第10条 役員の任期は2年とする。但し、連続しての再任はしない。

《改正後》

役員の任期は2年とする。但し、出席会員の過半数の同意により再任はできる。
以上、2月9日付けで標記を改正します。

○専門分科会等に関する協議を行いました。

専門部会とは、福祉機械研究会の分科会的な組織で、会員それぞれが専門的に相談・協議できる部会として設けたものです。より具体的な取り組みができる組織ではないかと思ひます。各部会は以下のとおりです。

- | | | | |
|-----------|--------|-----------------------|-----|
| ①販売推進部会 | (販売部会) | (有)よしたにクロージング | 吉谷様 |
| | | (製品の販売促進、展示会等出展) | |
| ②住宅関連推進部会 | (住宅部会) | (有)優設計事務所 | 加藤様 |
| | | (住宅関連、リホーム、福祉住宅等開発含め) | |

- | | | | |
|----------|-----------|------------------------|-------|
| ③ 開発推進部会 | (開発部会①) | 日高医院
(福祉機器、用具の開発関係) | 日高院長 |
| | (開発部会②) | (有)くるま工房くろぎ | 黒木様 |
| ④ 施設推進部会 | (施設部会) | たすけあいの郷 つれづれ庵 | 中嶋様 |
| ⑤ 支援部会 | (情報・支援活動) | タイアップのアオキ | 青木 康様 |

ご興味のある部会がありましたら、代表の方へコンタクトを取ってみてください。

○ 年会費のあり方について

正会員（主に、企業会員）から年会費¥5,000をいただいておりますが、現在、14万円程度の残額があります。会費無しの提案もありましたが、専門部会も立ち上げることで、突発的な必要経費も考えられることから、従来どおりの年会費徴収を行うことになりましたことをご報告致します。

○ 福祉機械研究会の名称について

研究会も10年を迎え、結成当初からすると参加者の業種も様々となっており、“福祉機械”というハード的要素の強い名前から他の名前に変更をしてもよいのではないかと意見が寄せられています。今後、研究会にふさわしい名称を皆様から募る予定です。

例：みやざき福祉機器研究会、宮崎福祉用具研究会、みやざき住環境開発研究会等・・・

■津山福祉住宅研究会との意見交換会

15:00～17:00

会長挨拶	株式会社 昭和	代表取締役社長	黒木 保善 氏
施設長挨拶	県介護・福祉研修所	所長	川村 博幸 氏
宮崎県福祉機械研究会の紹介	事務局	布施 泰史 氏	
岡山県津山福祉住宅研究会の紹介	代表者	後藤 光雄 氏	

・福祉機器開発等の発表（宮崎県福祉機械研究会から4名の発表）

（福祉住環境関連の発表）

- | | | |
|----------------|----|---------|
| ・ (有) 優設計事務所 | 代表 | 加藤 優二 氏 |
| ・ (有) 長友工務店 | 代表 | 長友 光雄 氏 |
| ・ (有) 鹿嶋福祉器研究所 | 所長 | 鹿嶋 龍夫 氏 |
| ・ 日高医院 | 院長 | 日高 四郎 氏 |

・岡山県津山福祉住宅研究会の話題提供

・石井十次と岡山、岡山ヴィゴレ（電くるサッカーチーム）他

閉会の挨拶 副会長 川村 博幸 氏（県介護・福祉研修所 所長）



さちっこキャリーを試して・・・



総勢40名の参加者がありました。

○津山福祉住宅研究会とは

結成：平成3年7月（前身は平成元年7月ホープ計画研究会・福祉住宅部会結成）

会員：22名（平成19年5月現在）

運営：企画委員により年間計画を策定、研究会例会にて決定し、会を運営する。

事務局：津山市総合福祉会館内 TEL0868-23-5130 代表 後藤光雄氏
基本目標

1. 適切な改修プランを提案することで、本人の自立を支援し、介護家庭の在宅生活の不安を解消していく。
2. 実践の中から福祉・保健・医療・介護・建築分野の行政・民間人との交流と連携を深める。
3. 市民活動の視点からまちづくりを進めていく。

具体的活動計画

1. 事例研究を通し、個人住宅改造プランを提案し、現場活動を実践する。
2. 福祉保健・医療・介護・建築分野とのネットワーク講座による異業種間の連携を図る。
3. 介護保険制度や法外の住宅改造の円滑な実施に協力する。
4. ふれあいサロン活動の場の改修プランを提案し、改修を実践する。
5. やさしいすまいづくり・まちづくりの大切さの啓発を図る。
6. 新会員の参加を進める。
7. 全国情報の把握と津山の情報発信を進める。
8. 美作大学福祉環境デザイン学科との連携を図る。

○研究発表1・・・テーマ「楽しい福祉住宅を」

(有) 優設計事務所 加藤 優二氏

福祉住宅のあり方、楽しい住まい方を中心にご自身の設計された住宅をモデルに、説明がありました。

《現在の住宅の問題点》

- ・機能が重要視されて機械的になりがち
- ・段差を無くすことにより文化を無くす？（畳と床）
- ・障害者の状態が変化する（便利にすることにより、その状態を当たり前と思った時に努力がなくなり、状態が悪くなる可能性がある。

《これからの福祉住宅について》

- ・宅内全てバリアフリーではなく、ある程度の段差を作ることで、リハビリに活用する。
（一歩外に出ると、バリアフリーでない）
- ・障害を補う事を目的とするのではなく、この家に住み続けたと思える家（障害者が居てもいなくても自然な家）

《Q&A》・・・津山市の方からの質問に対して回答を行ったものです。（一例）

Q1.これからのバリアフリー住宅とは？

A1.障がいを感じさせない住宅を目指すことが大切です。

Q2.住宅内の過度な手すり等はどう考えますか？

A2.住まう方の視点に立った設計・プランニングが大切と思います。

○研究発表2・・・テーマ「電動収納デッキ、段差解消装置 空飛ぶマイセルフ」

(有) 長友工務店 長友 光雄氏

国富の発明王！住宅に“動”を取り組んだ今までにない技術の提案です。

動くデッキを開発され、雨の日にはデッキを収納し、晴れの日にはデッキを出すなど、建築と

機械装置を上手に組み合わせた装置開発の発表がありました。

《Q & A》

Q1.四畳半のデッキは作れますか？

A1.基本的には設置できる装置です。

○研究発表3・・・テーマ「らくらくつりわ」

(有) 鹿嶋福祉器研究所 鹿嶋 龍夫氏

福祉施設等の障がい者用トイレ、最近では、九州各県の“道の駅車いすトイレ”に多数設置されているそうです。会場では、らくらくつりわを基に、使い方の説明がありました。

《Q & A》

Q1.つりわの長さはどう検討されていますか？

A1.トイレの座面からつりわに掴まれる最適な高さで設計している。輪も縦に3個連結し、高さの違うかた用に対応している。

○研究発表4・・・テーマ「車椅子背負い具、ロッキング車いすの開発」

日高医院 日高 四郎氏

背負い具（さちっこキャリー）、(株)日南家具工芸社、都城高専と共同研究を行ったロッキングチェア式車いすの展示と説明がありました。日高先生のアイデアの数々、また、特許申請までのご苦労話等、患者様の目線にたったものづくりの大切さを学びました。

《Q & A》

Q1.さちっこキャリーは、天井走行リフトに応用できるのではないかと提案意見。

●その他の意見

《Q & A》宮崎県→津山市への質問

Q1.住宅改修のニーズはどこから入ってくるのか？

A1.ホームヘルパーから改修の依頼がくる。また、改修ではボランティア的に行っている無償と、改修費を徴収する有償の2タイプで実施している。

Q2.民間、公的機関からの補助はあるのか？

A2.民間・公的財源はインターネットからでも情報を収集することが可能。

●感想

今回、福祉機械研究会10年目の節目の年として、県外のお客様（津山福祉住宅研究会）をお迎えし、貴重な意見交換会が行われました。プレゼンしていただいた4名の方、会場の準備設営では県介護・福祉研修所の方々、大変お世話になりました。

今年度1年の締めくくりとしては、充実した1日だったと感じております。

4月以降も、研究会のご支援の程よろしくお願い申し上げます。

***宮崎日日新聞の取材もあり、2月14日に掲載されました。**

懇親会 18時30分～宮崎市内の 和食「なぶら中央店」で行いました。参加者は、13名。大変盛り上がりました。お忙しい中駆けつけていただいた皆様、ありがとうございました。